

## 十和田市現代美術館 2015年度冬季企画展のご案内

## 「地霊 - 呼び覚まされしもの ~東川賞コレクションより~」

平素より、十和田市現代美術館の活動に対して格別なご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では、2016年1月30日[土]より5月15日[日]まで、「地霊-呼び覚まされしもの~東川賞コレクションより~」を開催いたします。

北海道上川郡東川町は、1985年に「写真の町」を宣言し、毎年夏に国際写真フェスティバル「東川町フォトフェスタ」を開催してきました。それにともない、「写真の町東川賞」（以下、東川賞）が制定され、30年以上にわたって国内外の写真作家を表彰し、その作品を展示するとともに、プリントを収集し続けています。

海外作家賞、国内作家賞、新人作家賞、特別作家賞（北海道出身、在住者の作品、または北海道をテーマにした作品）、さらに2010年に新設された東川在住の写真家、飛騨野数右衛門を記念する飛騨野数右衛門賞の受賞作家たちの作品は、粒ぞろいであり、きわめて貴重なコレクションといえるでしょう。

本展では、飯沢耕太郎氏をゲストキュレーターに迎え、「東川賞コレクション」より、「地霊-呼び覚まされしもの」というテーマで作品を選び展示いたします。

「地霊」（ゲニウス・ロキ）とは、その土地に固有の守護精霊であり、写真家たちは風景や人々の暮らしを撮影する時に、その存在を意識し、あたかも彼らと呼び交すようにしてシャッターを切ることがあります。東川賞の受賞作家の作品からも、そうした地霊との交信を感じさせるものがあります。作品に現れる深い世界をご堪能ください。

Genius loci - The Higashikawa Awards -

呼び覚まされしもの

2016年  
1月30日(土)から  
5月15日(日)まで

東川賞コレクションより

十和田市現代美術館 Towada Art Center

開催期間：1月30日(土)～5月15日(日) 10時～18時  
観覧料：一般観覧 500円(小学生以下300円)、学生 300円、高齢者(75歳以上) 200円、障害者(身体障害者) 100円、全館員の無料招待券は1枚600円、団体(10名以上)1500円引き、高校生以下無料。  
主催：十和田市現代美術館 特別協力：写真文化会館 北海道「写真の町」東川町 アートキュレーター【飯沢耕太郎】

監本 経緯  
グラフィック・イラスト ビーズ  
孫澤光  
宇井真紀子  
クラウディオ・エディンガー  
掛川源一郎  
川内倫子  
金秀男  
小島一郎  
小山根太郎  
鈴木理成  
須田一哉  
マニット・スリワニチブーン  
志賀理江子  
高梨量  
アントワニス・ダガタ  
オサム・ジエムス・中川  
飛騨野数右衛門  
深瀬昌久  
ヨルマ・アラウネン

お問い合わせ

十和田市現代美術館 新岡（にいおか）、豊川（とよかわ）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

## [ 基本情報 ]

展覧会名＝ 地霊一呼び覚まされしもの ～東川賞コレクションより～  
 展覧会英名＝ Genius loci - The Higashikawa Awards -  
 会期＝ 2016年1月30日 [土] - 2016年5月15日 [日]  
 会場＝ 十和田市現代美術館  
 開館時間＝ 9:00-17:00 (入場は閉館の30分前まで)  
 閉館日＝ 月曜日 (月曜が祝日の場合はその翌日)  
 観覧料＝ ただし2015年5月3日 [火] - 5月4日 [水] は18:00まで延長開館  
 企画展+常設展セット券1000円。企画展の個別料金は一般600円。  
 常設展の個別料金は一般510円。団体 (20名以上) 100円引き。高校生以下無料。  
 主催＝ 十和田市現代美術館  
 協力＝ 写真文化首都 北海道「写真の町」東川町  
 後援＝ 東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、  
 十和田市教育委員会  
 ゲストキュレーター＝飯沢耕太郎

## 出展アーティスト (東川賞受賞歴)

荒木経惟 (1991年、国内作家賞)、グラシエラ・イトウルビーデ (1990年、海外作家賞)、  
 猪瀬光 (1993年、新人作家賞)、宇井真紀子 (2012年、特別作家賞)、  
 クラウディオ・エディンガー (1999年、海外作家賞)、掛川源一郎 (1991年、特別作家賞)  
 川内倫子 (2013年、国内作家賞)、金秀男 (1995年、海外作家賞)、  
 小島一郎 (2010年、飛騨野数右衛門賞)、小山穂太郎 (2005年、国内作家賞)、  
 鈴木理策 (2006年、国内作家賞)、須田一政 (1985年、国内作家賞)、  
 マニット・スリワニチプーン (2007年、海外作家賞)、志賀理江子 (2012年、新人作家賞)、  
 高梨豊 (1993年、国内作家賞)、アントワーヌ・ダガタ (2004年、海外作家賞)、  
 オサム・ジェームス・中川 (2010年、新人作家賞)、飛騨野数右衛門 (2001年、特別作家賞)、  
 深瀬昌久 (1992年、特別作家賞)、ヨルマ・プラーネン (2014年、海外作家賞)  
 (五十音順、合計 20名)

## ゲストキュレーター

飯沢耕太郎

写真評論家。1954年、宮城県生まれ。1977年、日本大学芸術学部写真学科卒業。1984年、筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。1991年、キヤノン主催「写真新世紀」、リクルート主催「写真ひとつぼ展」の立ち上げにかかわる。主な著書に『写真美術館へようこそ』(講談社現代新書 1996)、『デジグラフィ』(中央公論新社 2004)、『写真的思考』(河出ブックス 2009)、『きのこ文学名作選』(港の人 2010)、『アフターマス 震災後の写真』(共著 NTT出版、2011)、『深読み! 日本写真の超名作 100』(パイインターナショナル 2012)、『日本現代写真アーカイブ』(青弓社、2015) などがある。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 新岡 (にいおか)、豊川 (とよかわ)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com



Arts Towada

## 本展の構成

- 第1部「生と死をつなぐもの」では、此岸（現実の世界）と彼岸（向こう側の世界）を往還するように写真を撮り続ける写真家たちを取り上げました。小島一郎、須田一政、グラシエラ・イトウルビーデ（メキシコ在住）、深瀬昌久、高梨豊、猪瀬光、アントワーヌ・ダガタ（フランス在住）、小山穂太郎、鈴木理策、オサム・ジェームス・中川（アメリカ在住）、志賀理江子、川内倫子にとって、写真は生の世界と死者たちの世界とを結びつけ、混じりあわせる装置なのではないでしょうか。
- 第2部「土地と暮らし」では、東川で生まれ育ち、役場に勤務しながら町民の生活を細やかに記録し続けた飛騨野数右衛門の写真を取り上げます。北海道の大自然に対峙しつつ、慎ましく、それでも精一杯の自己主張をしながら、戦前・戦中・戦後を生き抜いてきた東川の人々の姿は、まさに土地の精霊たちによって祝福されているように輝いて見えます。
- 第3部「精霊との交歓」では、まさに地霊たちを呼び覚まし、交流しようとする儀式をテーマに撮影している写真家たちを取り上げます。掛川源一郎、金秀男（韓国在住）、クラウディオ・エディングガー（ブラジル在住）、マニット・スリワニチプーン（タイ在住）、宇井真紀子、ヨルマ・プラーネン（フィンランド在住）の写真には、それぞれ儀式を司るシャーマンの姿が映っていますが、写真家もまたその異空間に深く没入し、「カメラを持ったシャーマン」と化しているようにも見えます。

## 作品紹介



1



2

お問い合わせ

十和田市現代美術館 新岡（にいおか）、豊川（とよかわ）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)



3



4



5



6

- 1| マニット・スリワニチプーン 《ピンクマン イン パラダイス #7》 2003 年
- 2| 鈴木理策 《Mont Sainte Victoire — NZ P-57》 2001 年
- 3| グラシエラ・イトウルビーデ 《フチタンの女たち—マドンナ・イグアナ》 1979 年
- 4| クラウディオ・エディンガー 《カルナバル—スカラの舞踏会／リオデジャネイロ 1991 年》 1991 年
- 5| 川内倫子 《Illuminanse—無題》 2009 年
- 6| 荒木経惟 《センチメンタルな旅・冬の旅—手指をにぎりしめると、にぎりかえしてきた。お互いにいつまでもはなさなかった。午前3時15分、奇跡がおこった。目をパッとあけた。輝いた。》 1990 年

お問い合わせ

十和田市現代美術館 新岡（にいおか）、豊川（とよかわ）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)

**関連イベントのご案内****■オープニングレセプション**

日時：1月30日（土）17:00-18:30（要企画展チケット）

**■アーティストトーク**

出展アーティストである気鋭の写真家 志賀理江子さんをお招きし、アーティストトークを行います。志賀理江子さんは十和田奥入瀬芸術祭2013にも参加いただきました。

ゲスト：志賀理江子（アーティスト） 聞き手：飯沢耕太郎

日時：1月31日（日）14:00-15:30（要企画展チケット、高校生以下無料）

定員：50名（事前予約優先）

**■ポートフォリオ・レビュー**

写真家を志す人にとって、ポートフォリオ（作品ファイル）を作ることはとても大事なことです。よいポートフォリオとはどんなものなのか、実際に持ってきていただいたポートフォリオを講評しながら考えていきます。作品点数や大きさには特に制限はありませんが、時間の関係で、あまり多すぎる場合には全部見切れないこともあります。他者の作品を見ることもとても大事なので、ポートフォリオを持参されない方も参加可能です。完成度の高さよりも、思い切って自分のやりたいことを表現している作品を期待しています。（飯沢耕太郎）

講師：飯沢耕太郎

日時：3月12日（土）13:00-15:00

料金：1,500円（ワンドリンク付き） 定員：12名（要事前予約）

**■トークシリーズ：小島一郎について語る**

39歳の若さで急逝した青森を代表する写真家小島一郎の作品について語り合います。

ゲスト：高橋しげみ（青森県立美術館学芸員） 聞き手：飯沢耕太郎

日時：4月9日（土）14:00-15:30（要企画展チケット、高校生以下無料）

定員：50名（事前予約優先）

**■トークシリーズ：写真文化都市 北海道「写真の町」東川町の取り組み**

東川町は1985年から毎年夏に「東川町国際写真フェスティバル」を開催するなど、写真文化の中心地として写真と世界の人々を繋ぐことを目的にさまざまな事業を行っています。東川町のユニークな取り組みについてお話しを伺います。

ゲスト：吉里演子（東川町職員）

日時：4月23日（土）10:30-12:00（要企画展チケット、高校生以下無料）

定員：50名（事前予約優先）

\* 会期中にさまざまな教育普及プログラム、関連プロジェクト、イベントを予定しています。詳細は、順次ホームページにて告知してまいります。

\* プレス用画像の貸し出しをご希望の際は担当までご連絡ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 新岡（にいおか）、豊川（とよかわ）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)